

大学の世界展開力強化事業
(2019年度採択)
2020年度フォローアップ結果

大学の世界展開力強化事業プログラム委員会

2021年1月15日

独立行政法人 日本学術振興会

フォローアップの総括

2019年度に採択された3件のプログラムについて、（1）取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望、（2）特記すべき成果、（3）交流学生数の実績等、（4）日-EU共同学位プログラムの構築数、（5）任意指標(設定した事業のみ)の各観点により、計画の進捗状況や設定した達成目標に対する実績（派遣・受入学生数）等を調査票によりフォローアップの上、整理した。

また、2019年度事業は日-EU間において採択年度を準備期間とすることを可能としているため、受入派遣計画は3件とも交流実績はないが、2020年度の本格的な交流実施に向け、学生選抜や派遣先の受入状況等の確認を進めている。

なお、このフォローアップは、大学の世界展開力強化事業の適正な事業管理を行うとともに、採択プログラムにおける円滑な事業実施の支援や成果の還元のため、各取組の進捗状況等を確認することを目的に実施しているものである。

(1)取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望

東京外国語大学

コンソーシアムを構成する各大学の代表教職員による会合をはじめ、大学間での活発な往来があり、学生の派遣・受入に向けたプログラムの基盤形成が進んだ。ウェブサイト「公共圏における歴史」を立ち上げ、事業内容について日本語と英語での情報発信を行った。

豊橋技術科学大学、宇都宮大学、千葉大学

本プログラム実施に向け、学内体制を整備するため、修業年限に係る学則を改正し、学生受入に向け、規程を制定し学内ルールを整備した。

慶應義塾大学

Japan-EU高度ロボティクスマスタプログラム(JEMARO)10年来の歴史を持つロボティクス分野の教育発展のために組織されたコンソーシアムによるエラスムス・スムドゥスプログラム(EMARO)の発展版として構成されたダブルディグリープログラムであり、EU3大学の教育プログラムの連携が強いだけでなく、慶應義塾大学との連携も強く修士研究の共同指導体制が組まれている。EU3大学のロボティクスに関する科目については、EMAROでの教育経験に基づいた発展版となっており、また慶應義塾大学の科目については2003年よりスタートした先端科学技術国際コースの科目群から選択することになっており、学生にとって分野的に広がりのある科目選択も可能なシステムとなっている。

(2)特記すべき成果

東京外国語大学

EU側の拠点校である中央ヨーロッパ大学(CEU)に教職員を複数回派遣し、ダブルディグリープログラムの実施に向けた協議を重ねた。また「公共圏における歴史」という本事業の主題についての教育やアウトリーチ活動の理解を促進するため、次年度の公開シンポジウム開催に向けた準備を実施した。東京外国語大学で2月に行われたコンソーシアム会合の際には学内施設のみならず、インターンシップの候補となる博物館や、大学周辺の「公共圏における歴史」に関する史跡を訪問し、大学キャンパスにとどまらない学修・交流の可能性を確認した。

1月、東京外国語大学とCEUを中心とする5大学により、プログラム運営、カリキュラム、学位等について規定したコンソーシアム協定を締結した。同協定の枠組みに則し、東京外国語大学におけるダブルディグリープログラム実施に向けた学位、単位認定、成績評価基準等について、代表教員と教務課の間で協議を重ね、問題解決に努めた。外部有識者による外部評価委員会を設置し、事業の健全な推進に向けた体制を整えた。

豊橋技術科学大学、宇都宮大学、千葉大学

事業実施のためのコンソーシアムを設置し、Academic and Management Board(AMB)及びQuality Assurance Board(QAB)を設置し、各ボードのミッションを以下のとおり定めた。また各コンソーシアム構成大学からAMB及びQABボードメンバーを配置した。

- ・ AMBのミッションは、プログラムのアカデミック関係を決定・管理及び学生選考、学生履修管理等を行う。
- ・ QABのミッションは、プログラムの質保証ポリシー策定・実施、モニタリング、質保証促進等を行う。

第1回目の学生応募についてEU側と連携して行い、EU側から100名を超える応募者を得た。日本側からは8名の候補者を確保し、ベルギーにおいてEU側と合同で第1回AMBを開催し、学生選考を行った。本会議では、本学から8名の学生及びEU側から募集のあった101名の学生から8名の合格候補者及び21名の補欠合格者を選考した。

慶應義塾大学

2020年9月から開始する新規プログラムであるが、2019年1月31日締切の応募では428人の申請があり、最終的に9名の合格が承認されている。また、日本人学生も2020年度の達成目標数2名に比較して5名の応募者及び合格者となったが、その後新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響により2名辞退となった。合格者の選別においては、既に完了しており、EUと慶應義塾大学で定めた共通の基準が設定され、双方に評価を行う体制を確立している。初年度であったため、一部の評価はEUと日本で別々に行ったが、次年度に向け全ての評価を統合化することで合意を得ている。

JEMAROの1年目については、コンソーシアムで協議を行った科目をベースとしたプログラムが組まれている。残念ながら、COVID-19の影響で2020年9月スタートのプログラムはオンラインでのコース履修を予定しているが、2年目の研究活動に向けて、合格したJEMARO学生の日本側の指導教員については既に決定している。

(3)交流学生数の実績等

①派遣の進捗状況

東京外国語大学

東京外国語大学の教員・若手研究者を中心に長年、研究面で協力体制を築いてきた中央ヨーロッパ大学との間で、学生の派遣に向けた職員の往来も活性化しており、両校の協力関係がより実質化された。フィレンツェ大学、新リスボン大学も含め、次年度以降の学生派遣に向けた実務レベルでの情報共有を進めることができた。

豊橋技術科学大学、宇都宮大学、千葉大学

学内で学生募集説明会を実施し周知に努めたため、優秀な学生の申請があり、8名の履修学生を獲得できた。

慶應義塾大学

日本人応募者を多く得るためにJEMAROに関する情報発信を積極的に実施しており、EU側とは別に日本語によるJEMARO情報発信のためのウェブサイトの開設、また2019年12月及び2020年1月に説明会を実施した。また、慶應義塾大学内では、JEMARO学生が希望した場合の受入れ候補教員について23名の教員から既に了解を得ており、その候補教員の研究室所属各学生へもJEMARO情報を積極的に伝達している。次年度の学生については今年度秋学期に広告チラシの配布を予定している。

②受入の進捗状況

東京外国語大学

日・EUの複数機関をめぐりながら学ぶという本プログラムの特性を最大限活かすべく、教務関連の手続きのオンライン化を推進した。また、中央ヨーロッパ大学と連携しつつ、カリキュラムや履修等、東京外国語大学での学びや生活について包括的に説明するハンドブックを作成することを決定し、準備作業に着手した。

豊橋技術科学大学、宇都宮大学、千葉大学

エラスムス事業での枠組みと日本側の教務、事業枠組みに関するルールとの調整のための協議を行い、第1回目の学生募集・選考を実施することができた。

慶應義塾大学

修士論文の慶應義塾大学側の指導教員は既に決定しており、EU滞在の1年目においても研究に関する打ち合わせを行える体制を整えている。また、各教員が関係する領域を3つの分野（1st choice: Control, Mechatronics, 2nd choice: Robotics, Human Interface, 3rd choice: Signal Processing, Biological Information）に大別することで、EU側の共同指導教員の取り決めを行いやすい体制を整えている。

(4)日-EU共同学位プログラムの構築数

東京外国語大学

EU側大学の教職員を招聘し、各校におけるカリキュラムの準備の進捗や課題についての情報共有、意見交換を行った。初年度中にコンソーシアム協定による枠組みの確立から、具体的な教育内容での方向性の統合、質保証へと協力関係を深化させることができた。

豊橋技術科学大学、宇都宮大学、千葉大学

エラスムス事業での枠組みをベースにしつつ、プログラムの教育内容、学位審査、単位換算、日本人入学予定者からプログラム履修生を選考する方法、EU側学生の日本の入学資格等の教務面、また、プログラム参加料・授業料、奨学金等の財政的事項を合意した。

慶應義塾大学

JEMAROプログラムへの出願時に、出願者には希望する研究領域及び指導教員候補を選定することを条件としており、JEMAROへの受入れが決まった段階で、慶應義塾大学側の指導教員も決まるシステムとなっている。領域及び希望指導教員については、第1位から第3位までを選定することになっており、特定の領域や指導教員に希望が集中した場合には調整が行える体制となっている。2020年度の受入れ学生については一部調整を行ったが、第3位までの希望範囲内で調整が行えている。

(5)任意指標(設定した事業のみ)

豊橋技術科学大学、宇都宮大学、千葉大学

本事業以外にもEU圏との交流事業があり、継続して学生をEU圏に派遣するプログラムを有している。

(単位：人)

	2019年度	
	任意指標	達成状況
(指標1) EU 留学生数	29	23
(指標2) EU への派遣学生数	25	31
(指標3) EU からの教員受入数	10	5
(指標4) EU への職員派遣数/ EU からの職員受入数	2/2	7/2
(指標5) 協力企業関係者数	6	8

別表1:プログラムごとの派遣学生数(2019年度選定)

(単位:名)

大学名	事業名	取組年度	合計人数		達成目標に対する実績の割合	派遣人数	
			目標(計)	実績(計)		目標	実績
東京外国語大学	歴史と公共圏を鍵概念として日欧相互理解を深める国際人材育成プログラム	2019	0	0	-	0	0
		計	0	0	-	0	0
豊橋技術科学大学、宇都宮大学、千葉大学	近未来クロスリアリティ技術を牽引する光イメージング情報学国際修士プログラム	2019	0	0	-	0	0
		計	0	0	-	0	0
慶應義塾大学	Japan-EU高度ロボティクスマスタープログラム(JEMARO)	2019	0	0	-	0	0
		計	0	0	-	0	0
合計			0	0	-	0	0

別表2:プログラムごとの受入学生数(2019年度選定)

(単位:名)

大学名	事業名	取組年度	合計人数		達成目標に対する実績の割合	受入人数	
			目標(計)	実績(計)		目標	実績
東京外国語大学	歴史と公共圏を鍵概念として日欧相互理解を深める国際人材育成プログラム	2019	0	0	-	0	0
		計	0	0	-	0	0
豊橋技術科学大学、宇都宮大学、千葉大学	近未来クロスリアリティ技術を牽引する光イメージング情報学国際修士プログラム	2019	0	0	-	0	0
		計	0	0	-	0	0
慶應義塾大学	Japan-EU高度ロボティクスマスタープログラム(JEMARO)	2019	0	0	-	0	0
		計	0	0	-	0	0
合計			0	0	-	0	0

別表3:日-EU共同学位プログラムの構築数(2019年度選定)

(単位:件数)

大学名	事業名	取組年度	合計件数		達成目標に対する実績の割合	ジョイント・ディグリー		ダブル・ディグリー	
			目標(計)	実績(計)		目標	達成	目標	達成
東京外国語大学	歴史と公共圏を鍵概念として日欧相互理解を深める国際人材育成プログラム	2019	0	0	-	0	0	0	0
		計	0	0	-	0	0	0	0
豊橋技術科学大学、宇都宮大学、千葉大学	近未来クロスリアリティ技術を牽引する光イメージング情報学国際修士プログラム	2019	0	0	-	0	0	0	0
		計	0	0	-	0	0	0	0
慶應義塾大学	Japan-EU高度ロボティクスマスタープログラム(JEMARO)	2019	0	0	-	0	0	0	0
		計	0	0	-	0	0	0	0
合計			0	0	-	0	0	0	0